

～オホーツク管内博物館連絡協議会連絡誌～

はばた

翔けオ博協！

第 2 号

発行年月日 令和 4 年 3 月 31 日

〒 090-0015

発行所 北海道北見市公園町 1 番地
北網圏北見文化センター内
オホーツク管内博物館
連絡協議会事務局

TEL. 0157-23-6742

FAX. 0157-31-8344

令和 3 年度事業

1. 諸会議の開催

(1) 令和 3 年度オホーツク管内博物館連絡協議会総会

・ 4 月 23 日(金) (書面協議)

報告事項

- ① 令和 2 年度事業報告について
- ② 令和 2 年度決算報告について
- ③ 監査報告について

協議事項

- ① 令和 3 年度事業計画(案)について
- ② 令和 3 年度予算(案)について
- ③ 会員・役員について
- ④ 活動助成要綱の改正について
- ⑤ 宗谷管内学芸職員連絡協議会との連携巡回展開催について

(2) 令和 3 年度第 1 回オホーツク管内博物館連絡協議会役員会

・ 4 月 23 日(金) (書面協議)

協議事項等については総会内容と同じ

(3) 令和 3 年度オホーツク管内博物館連絡協議会臨時役員会

・ 9 月 16 日(木) (書面協議)

報告事項

- ① 予定していた研修会の中止について
- ② 新規会員について
- ③ 全国博物館大会の札幌開催について

協議事項

- ① 令和 3 年度補正予算(案)について

2. 研修事業

(1) 研修会(北見市)

- ・ 12 月 18 日(土)～2 月 13 日(日)
- ・ 場所：北網圏北見文化センター
- ・ 内容：美術企画展
「画家・岸田劉生の軌跡
～油彩画、装丁画、
日本画を中心に～」

(2) 研修会(網走市)

- ・ 2 月 18 日(金)
- ・ 場所：東京農業大学オホーツクキャンパス
- ・ 内容：「博物館法改正と
全国博物館大会の報告」

(3) 研修会(北見市)

- ・ 3 月 23 日(水)
- ・ 場所：北見市ところ埋蔵文化財センター
- ・ 内容：「オホーツク文化展及び
宗谷管内学芸職員連絡協議会
との交流会」

3. 広報活動

- ・ 機関紙「翔けオ博協！」第 2 号の発行

4. その他

- (1) 会員相互の資料の貸借及び斡旋
- (2) 講演、研修会、企画展等の後援
～会員の各館事業に対する後援
- (3) 宗谷管内学芸職員連絡協議会との連携事業
「樺太 絵ハガキに見る樺太の記憶
～知られざる北の国境～」の開催

令和 3 年度オホーツク管内博物館連絡協議会総会報告

令和 3 年度の総会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面による協議となりました。報告事項では、令和 2 年度の事業報告・決算報告・

監査報告などを報告、承認されました。協議事項では、令和 3 年度の事業計画・予算、会員・役員、活動助成要綱の改正、宗谷管内学芸職員連絡協議会との連携巡回展開催について、原案どおり承認されました。

令和3年度オホーツク管内博物館 連絡協議会研修事業（北見市） 北網圏北見文化センター

令和3年12月18日(土)から令和4年2月13日(日)まで、北見市の北網圏北見文化センターにおいて開催された美術企画展「画家・岸田劉生の軌跡～油彩画、装丁画、日本画を中心に～」と、関連イベントのギャラリートークを併せて、当協議会の研修事業としました。

本展覧会は北見市美術展実行委員会と北網圏北見文化センターが主催し、公益財団法人日動美術財団の協力により開催されました。内容は、日動美術財団のコレクションの中から、克明な油彩画、流麗な装丁画、軽やかな日本画などの作品約90点を展示し、大正時代を代表する画家・岸田劉生が切り開いた独自の芸術表現を幅広く紹介し、岸田の生涯に迫ったものです。



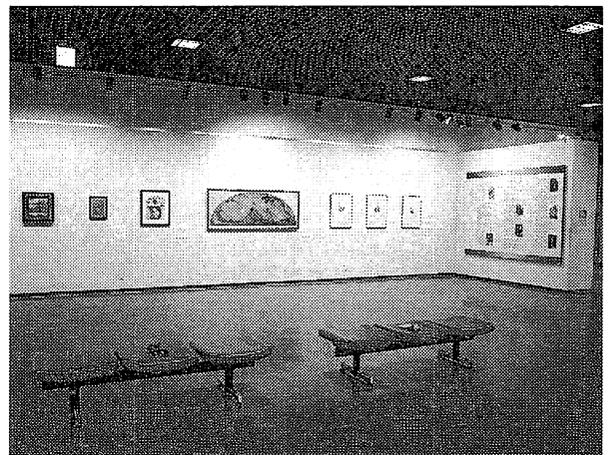
美術企画展の様子

岸田劉生は1891年(明治24年)、薬屋「楽善堂」を経営する実業家、岸田吟香の四男として東京・銀座に生まれました。東京高等師範附属中学校を中退後、1908年(明治41年)に白馬会葵橋洋画研究所に入り、外光派の画家・黒田清輝から本格的に絵を学びました。1910年(明治43年)には、第4回文部省美術展覧会に風景画2点を初出品し入選しています。

1911年(明治44年)に文芸雑誌「白樺」を通して出会ったゴッホやセザンヌらポスト印象

派の画家たちの作品に感化されました。同年、「白樺」主催の展覧会で柳宗悦と知り合い、武者小路実篤ら「白樺」周辺の文化人とも親交を深めていきました。1912年(大正元年)には、高村光太郎、斎藤与里、清宮彬、萬鉄五郎、木村莊八らとヒュウザン会を結成。同年開催された第1回ヒュウザン会展に岸田は14点を出品し、高い評価を得ました。ヒュウザン会は1913年(大正2年)、フユウザン会と改称し第2回の展覧会を開催したのち解散しました。ヒュウザン会の活動期間は短いものの、ポスト印象派やフォービズムの影響を受け、新たな表現を示した美術運動として重要な意義を持っています。また、同年、第1回ヒュウザン会展での岸田の作品に魅了されていた小林蓁(しげる)と結婚し、翌年、娘の麗子が生まれています。

第2回フユウザン会展の後には、訪ねてきた友人を座らせては肖像画を多数描いており、当時「岸田の首狩り」といわれて恐れられました。友人が訪ねてこない時には自画像を描くことになりましたが、鏡に映る自分の姿や友人たちと向き合った過程を経て、岸田は新たな自己表現を探ることになります。神秘性や宗教性を宿した北方ルネサンスの細密な写実、特にアルブレヒト・デューラーからの影響を強く受け、岸田は写実表現を追求していきました。

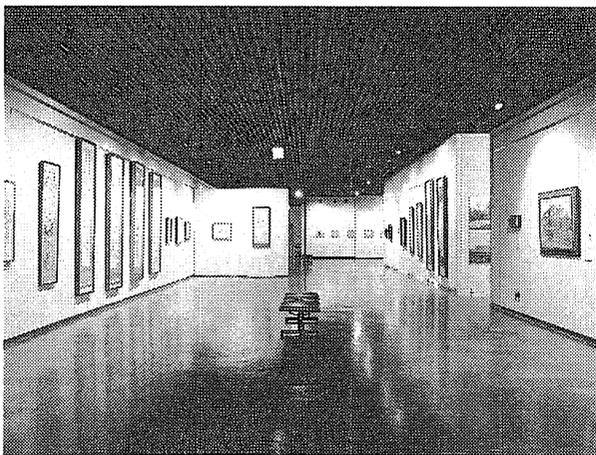


1915年(大正4年)頃の作品

1915年(大正4年)には「現代の美術社」主催の美術展覧会(事実上の第1回草土社展)に清宮彬、木村莊八、中川一政、椿貞雄らと出品

しました。第2回展以降を草土社展覧会と呼ぶこととし、岸田は風景画の代表作「切通しの写生(道路と土手と塀)」を出品。自然を自己の目を通して観察し、草や土に魂が宿るかのような、見る者を圧倒する精密描写による写実表現を確立させました。

1916年(大正5年)、岸田は肺結核と診断され、翌年、療養のため神奈川県藤沢町鵜沼に移住します。そして、壺や林檎などの静物画を通じて存在する物の神秘性を感じ、美しいと感じる心の眼がとらえた美の姿(内なる美)を求め、写実と装飾を合わせた独自の写実に昇華させていきました。愛娘・麗子をモデルにした一連の「麗子像」は1918年(大正7年)から描かれています。この頃、鵜沼時代には「白樺」等の装丁画も数多く制作されました。その後、中国の絵画に関心を持ち、日本画の制作も始めました。



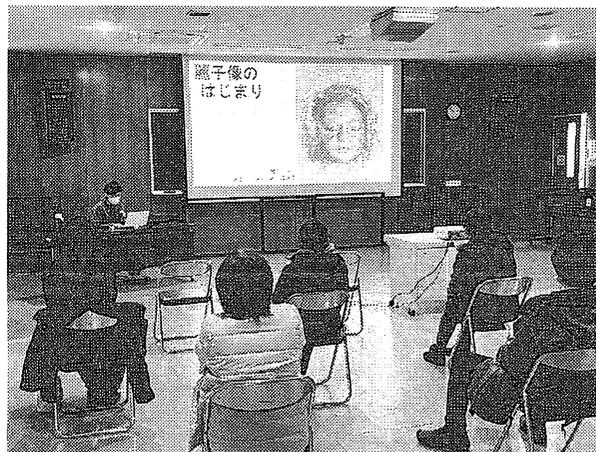
日本画や麗子による作品など

1923年(大正12年)、関東大震災で家が半壊し、京都に移住。岸田は東洋古美術の収集に熱中し、お茶屋遊びにふける一方、肉筆浮世絵、中国の宗元画などの「東洋の美」をも吸収し、自らの作品に反映させています。

1926年(大正15年)、鎌倉に移住。日本画や静物画、肖像画などを制作しました。

1929年(昭和4年)には、満州鉄道に招かれ中国に旅行、大連、奉天、ハルピンに滞在し風景画を描きました。帰国後、山口県徳山(現周南市)に滞在しましたが、体調を崩し、尿毒

症と胃潰瘍により12月20日に38歳で生涯を閉じました。



松浦学芸員によるギャラリートーク

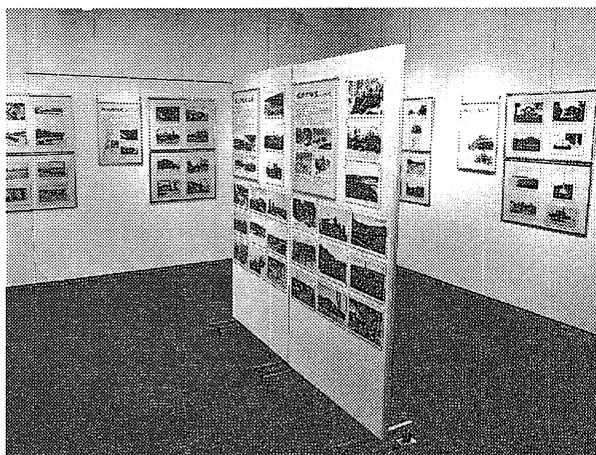
本展覧会の関連イベントであるギャラリートークは、展覧会の開催期間中に6回実施され、北網圏北見文化センターの松浦葵学芸員が担当しました。数多くの図版を使ったスライドショーにより、画家・岸田劉生の生涯と展覧会鑑賞のポイントを分かりやすく解説していただきました。

今回の美術企画展は、岸田の初期から晩年までの作品がバランスよく構成され、フェウザン会展や草土社展の会場装飾画、装丁画、日本画、娘・麗子による油彩画など、なかなか見ることのできない貴重な作品が並び、たいへん充実した内容となりました。最先端の芸術を取り込もうとした同時代の画家とは対照的に、北方ルネサンスや中国の古典絵画、日本の肉筆浮世絵に学び、徹底した写実に東洋の美を織り交ぜ、「内なる美」を求め続けた岸田劉生。38年という短い人生を情熱的に駆け抜け、現在も多くの人々に影響を与える画家・岸田劉生の魅力を存分に感じ取れた研修会となりました。

連携巡回展
「樺太 絵ハガキに見る樺太の記憶
～知られざる北の国境～」の開催
(湧別町、斜里町)
湧別町文化センターさざ波
斜里町姉妹町友好都市交流記念館

オホーツク管内博物館連絡協議会と宗谷管内学芸職員連絡協議会との連携事業「樺太 絵ハガキに見る樺太の記憶～知られざる北の国境～」を令和3年7月1日(木)から8月20日(金)まで湧別町文化センターさざ波において、また、12月11日(土)から令和4年2月28日(月)まで斜里町姉妹町友好都市交流記念館において開催しました。

この連携巡回展は、宗谷の歴史や自然、樺太、オホーツク文化をテーマとした巡回展の開催等、研究成果の更なる普及活用を模索していた宗谷管内学芸職員連絡協議会からの連携依頼を受け、開催の運びとなったものです。令和3年3月の紋別市立博物館での開催に続いて、今年度は湧別町と斜里町での開催となりました。



湧別町での巡回展の様子

展示の内容は、稚内市立図書館が所蔵する樺太絵はがきのデータをA4サイズに拡大して印刷したものと、鉄道、自然、工業、都市などのテーマ別に作成された解説パネルにより、戦前の樺太の様子のほか、樺太と宗谷との関わりを伝えるものです。

湧別町での巡回展を担当した湧別町ふるさと館JRYによると、今回の展示ではより多くの人に見てもらうことを考え、往来の多い湧別町文化センターを会場として選択し、開催期間を約2ヵ月と長期にしたことで、来場者は日ごとに増えていったそうです。来場者からは、引き揚げという状況から「当時の写真などは持っていなかったのを見に来た」「樺太に先々代がいた」などの声が聞かれ、町民や近隣市町村の人々の関心は高かったようです。湧別町には樺太の資料はほとんどなかったため、今回の展示内容は普段はなかなか見ることのできない広域連携ならではのものとなりました。



斜里町での巡回展の様子

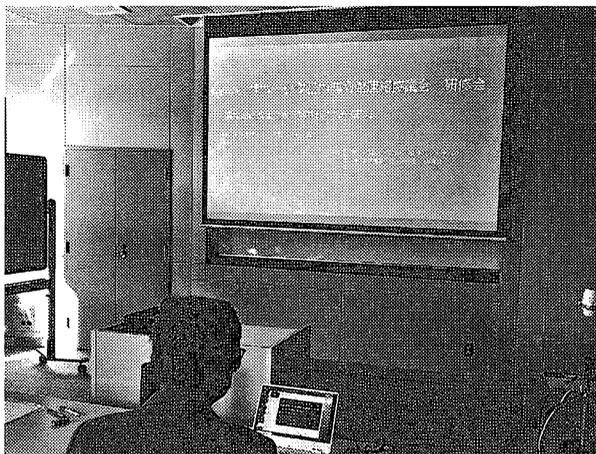
斜里町での巡回展を担当した斜里町立知床博物館では、展示会場を博物館に付設する姉妹町友好都市交流記念館とし、約2ヵ月半の開催期間としたことで、多くの方々に観覧いただくことができました。目にする機会の少ない日本統治時代の樺太の風景に観覧者の多くが驚いていたようです。当時の樺太を知る方も観覧に訪れ、絵ハガキを見て「懐かしい」と、たいへん喜ばれたそうです。

オホーツク管内にも樺太からの引き揚げ者やその家族が住んでおり、「樺太」はオホーツク地域にも関係するテーマでありますし、隣接した管内である「宗谷」について知ることは意義のあることと思います。今回の連携巡回展が、ご観覧いただいた皆様にとって「樺太」と「宗谷」について理解を深める機会となれば幸いです。

令和3年度オホーツク管内博物館 連絡協議会研修会（網走市） 東京農業大学オホーツクキャンパス

令和4年2月18日（金）、網走市の東京農業大学オホーツクキャンパスにおいて研修会を行いました。内容は「博物館法改正と全国博物館大会の報告」と題し、東京農業大学の宇仁義和教授に座長を務めていただき、一連の議論の要点をまとめてお話いただきました。

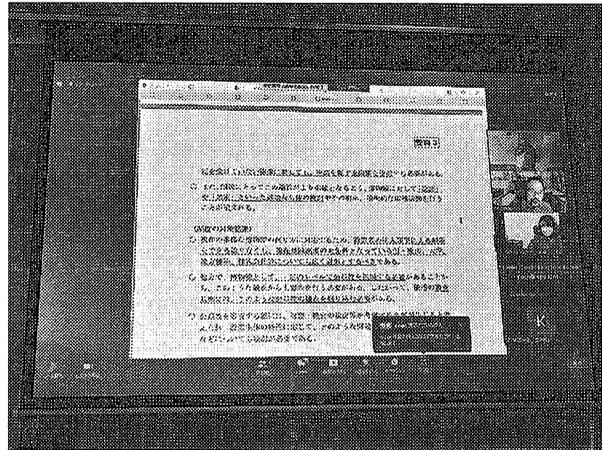
テーマとした博物館法改正は、2018年（平成30年）10月に博物館行政が文化庁へ一本化されたことに始まり、2019年（令和元年）11月に文化庁の文化審議会に博物館部会が設置されて議論がなされ、昨年12月に「博物館法制度の今後の在り方について」が答申されたものです。現状では社会教育施設と位置付けられている博物館ですが、これからは文化施設であり社会的・地域的課題と向き合う場として期待されること、博物館登録制度は設置主体が拡大されるが審査は引き続き教育委員会がおこなうこと、館相互や関係機関との連携を促進しつつ学芸員の制度改革は先送りとなったことが答申の概要となります。北海道博物館協会学芸職員部



研修会の様子

会からも意見書が提出され、昨年、札幌市で開催された第69回全国博物館大会でも議論されています。令和4年の年明け早々には、日本博物館協会主催の緊急フォーラム「文化審議会

答申『博物館法制度の今後の在り方』を読み解く」も開催されています。



はじめてのオンライン研修会

研修会の中で、座長の宇仁教授からは、「今回の答申を踏まえた博物館法改正の目的は、博物館は文化庁が所管する文化施設であることを宣言することではないかと考える」とのお話もありました。博物館法の上位法は文化財保護法に加え、文化芸術基本法と文化観光推進法が主体となり、博物館は文化施設、社会的・地域的課題と向き合う場としての役割が答申されることから、今後も博物館法改正議論についてはもとより、博物館関連法、関連制度、支援策等について動向を注視する必要性を強く感じました。

今回の研修会では、新型コロナウイルス蔓延防止措置を踏まえ、また、広大なオホーツクを移動する時間を克服するため、当協議会では初めてオンライン（Zoom使用）を併用した新しい形での研修会となりました。普段顔を合わせる機会の少ない会員とも交流する絶好の機会となりました。

オホーツク管内博物館連絡協議会会員名簿

(令和4年3月現在)

設置主体区分	No.	市町村名	施設名	備考
町 村	1	美幌町	美幌博物館	
	2	斜里町	斜里町立知床博物館	
	3	清里町	清里町郷土資料館	
	4	訓子府町	くねっぷ歴史館	
	5	遠軽町	遠軽町埋蔵文化財センター 遠軽町郷土館 丸瀬布郷土資料館 丸瀬布昆虫生態館	
	6	湧別町	湧別町ふるさと館 JRY	
	7	佐呂間町	佐呂間町開拓資料館	
市	8	北見市	北網圏北見文化センター ピアソン記念館 北見ハッカ記念館 端野町歴史民俗資料館 ところ遺跡の館	
	9	網走市	網走市立郷土博物館 網走市立郷土博物館分館（モヨロ貝塚館）	
	10	網走市	網走市立美術館	
	11	紋別市	紋別市立博物館	
国・道・財団等	12		(公財) 博物館網走監獄	網走市 (設置場所)
	13		(財)北海道立北方民族博物館	網走市 (設置場所)
	14		(財)北海道立オホーツク流水科学センター	紋別市 (設置場所)
	15		東京大学大学院附属常呂資料陳列館	北見市 (設置場所)
	16		(株)木のおもちゃワールド館	遠軽町 (設置場所)
	17		東京農業大学博物館情報学研究室	網走市 (設置場所)
賛助会員	18		NPO法人 オホーツク文化協会	北見市 (設置場所)
	19		GROUP 斜面	北見市 (設置場所)